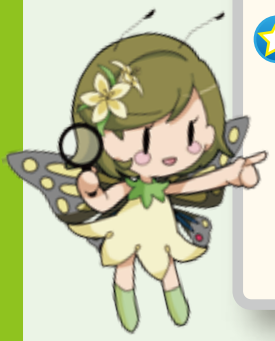
高梁川流域キッズ

高梁川流域ゆかりの偉人・賢人特集

津田白印

新見市 高梁市 総社市 早島町 倉敷市 矢掛町 井原市 浅口市 里庄町 笠岡市

- 活躍した年:
  1862～1946年
- 活躍した分野:
  社会実業家・南画家
- ゆかりのある場所:
  ・ワコーミュージアム
  ・「一如」の碑



津田白印は、文久２（１８６２）年、笠岡の浄土真宗浄心寺の住職の次男として生まれました。

明治１３（１８８０）年、福岡県にあった浄土真宗の学校・乗桂校に入学し、東洋円月の弟子となりました。乗桂校では、仏教や漢学だけでなく、「慈悲の心」も学びました。

また、大分県の西光寺でさらに学業を重ねるかたわら、佐賀蓮池藩のお抱え絵師だった成冨椿屋に弟子入りして、画家としての基礎も身につけ、優れた花卉図や山水画を多数残しました。

３０才のときに、奈良監獄（刑務所）の教誨師（よい考えを教える人）となりましたが、刑務所に入っている少年に教えを説くうちに、罰することよりも、保護の手を差しのべることの必要性を強く感じました。

明治３３（１９００）年、笠岡町富岡の本林寺内に「甘露育児院」をつくり、身寄りのない孤児を保護し、その養育・教育を始めました。明治３９（１９０６）年、東北地方が大飢饉になったときには１０８人もの孤児を救済しています。

また、大正１２（１９２３）年には、学校に行きにくい女子の教育を充実するため、私立淳和女学校（今の岡山龍谷高等学校）をつくり校長となり、女子教育の振興に貢献しました。

これらの事業をおこなっていく上で、経営の危機に直面した時には、自らの書画を売って運営資金を集めたことはよく知られています。